

# 夏秋きゅうり新規栽培者向け【一步先行く作業のポイント 6月】

## ◎ 仕立て方と草勢判断の目安

### ○ 整枝目安

#### 【20~25節くらい】

- ・主枝は管理できる高さで摘心(25 節くらい)
- ・摘心後は一時的に草勢が弱くなるため、必ず草勢が強く、摘心していない子づる2~3本を確保しておきます。
- ・15~20 節以上は放任するか伸びた先を適当に摘心します。

#### 【15~20節くらい】

- ・15~20 節までの子づるは2~3節で摘心します。

#### 【10~15節くらい】

- ・10節までの子づるは1節で摘心します。

#### 【~10 節くらいまで】

- ・5節くらいまでの子づると主枝7節までの雌花は除去します。(株元が混み合ったり、元から果実をならせると株が弱ってしまうため)
- ・活着不良や低温で生育が悪い場合は、これより2~3節上位まで雌花を摘花し、茎葉の生育を進めます。

### 【樹勢判断の11のポイント】

- ① 芯が大きく包まれているか
- ② 巻きひげは太く、元気よく伸びているか
- ③ 成長点近くで茎は急激に細くなっていないか
- ④ 雌花は上~横を向いて開花し、濃い黄色か
- ⑤ 開花位置からつる先までの長さが 50cm (葉数5枚程度)
- ⑥ 葉の色や光沢、大きさは適正か (葉柄の角度は約 45 度上を向く)
- ⑦ 中段の側枝の発生は良好か
- ⑧ 孫づるの発生は良好か
- ⑨ 果実の尻部のしおれた花弁(花おさまり)は黄色いか
- ⑩ 子葉が健全でしっかりついているか
- ⑪ 敷きわらやマルチの下に白い根が見えているか

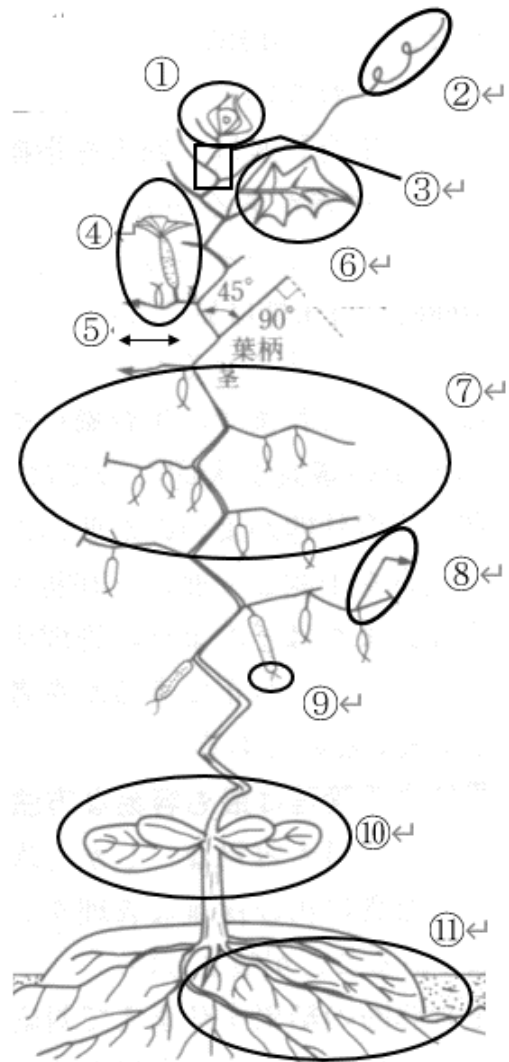


図1 きゅうりの草勢

※つる枯れ病対策として、整枝の際はなるべく節の間部分から切るようにしましょう。

### ○ 摘葉 「摘葉しようか、やめようか」迷った場合は摘葉する!

- ・葉が混み合ってくると下葉に光が当たらなくなり、光合成能力が低下します。主枝の展開葉が 20 枚以上に生育した後であれば、下位節から摘葉しても収量への影響は少ないので、混み合ったところを中心に1回あたり3~5枚摘葉します。
- ・緑色の濃い立派そうな葉でも、展葉後 35 日ころを過ぎると光合成能力が低下してくるので、日当たりや風通しを邪魔するような葉は摘葉します。

○ 葉で作られた養分転流の優先順位

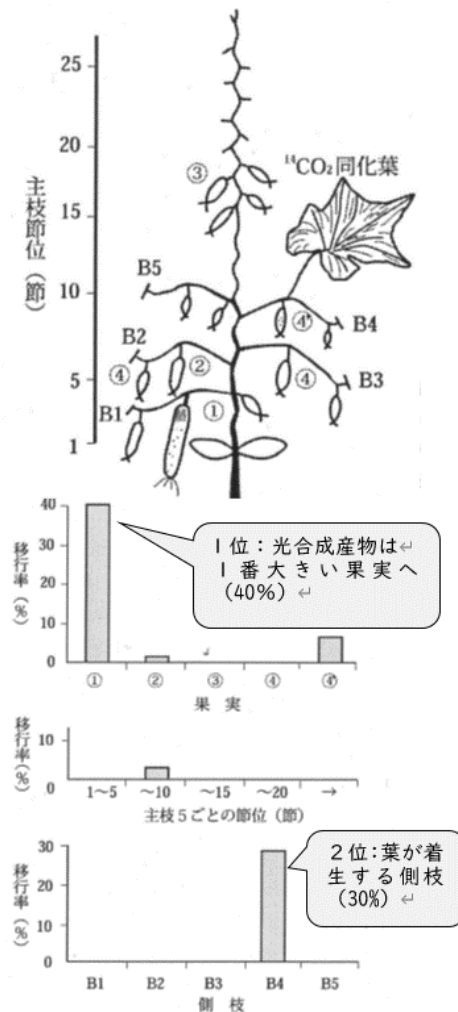
- 1位:最も大きい果実①(約40%)
- 2位:葉が着生する側枝 B4(約30%)
- 3位:葉に近い果実④(約10%)
- 4位:主枝 5~10 節位部分(約5%)
- 5位:2番目に大きい果実②(約3%)の順  
(図2参照)

○ 摘果

- ・株への着果負担が大きくなると、節成性品種(「ニーナ」や「耐病光華」)では、開花から収穫までの日数が長くなります。
- ・天候不順が続くと、日照不足で草勢が弱り、病気の発生を助長することがあります。
- ・曲がり果(奇形果)を適宜、摘果して草勢維持を図ります。

○ 防除

- ・梅雨に入り雨が多くなると、病害の発生が増加します。そのため、降雨の前にはタイミングを逃さず薬剤散布を行い、葉の表面を保護する必要があります。
- ・摘葉が不十分であると薬剤がかかりづらくなるため、「重なり葉」がないような摘葉が理想的です。



【図2 光合成産物の配分】

(引用:農業技術大系

野菜編第1巻基413頁第4図)

【草勢が弱い場合の対策】

- ・追肥の量を増やしたり間隔を短くしてみる
- ・曲がり果等を速やかに摘果する
- ・摘葉・摘芯を遅らせる
- ・液肥のかん注または葉面散布

【草勢が強い場合の対策】

- ・追肥の開始時期を遅らせる
- ・追肥量の減少と間隔を長くしてみる
- ・積極的な摘葉

◎ 収穫

- (1) 果実の大きさは、出荷規格に合わせ、取り遅れのないよう、毎日収穫します。
- (2) 果実は昼間より夜間の肥大量が大きく、朝と夕の1日2回収穫し、大きさを揃えます。
- (3) イボの無い首部を持って収穫するなど、イボを落とさないよう注意します。
- (4) 収穫時には幼果にも目を配り、明らかに販売不能と思われる不良果(曲がり、くびれなど)は、早めに摘果します。
- (5) 収穫後は涼しい場所で選別、箱詰めします。箱詰めまでとまらなかつた果実は、清潔で湿らせた布をかけて、涼しい場所で保管し品質の低下を防ぎます。